

令和 7 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
水産部門

未来に向けてイセエビの資源管理を振り返る
—綿糸網に紡いだきた太海の思い—

○氏名又は名称 鴨川市漁業協同組合 太海エビ網組合（代表 江澤 誠）

○所 在 地 千葉県鴨川市

○出 品 財 技術・ほ場（資源管理・資源増殖）

○受 賞 理 由

・地域の概要

鴨川市は千葉県南部に位置し、太平洋に面した温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれている。出品財の対象地域である太海地区は、海士、刺網漁、見突漁、採藻、一本釣漁業が営まれる漁村であると同時に、眼前の仁右衛門島や太海海岸には多くの釣り客や海水浴客が訪れる観光地としても知られている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

鴨川市漁業協同組合太海支所の下部組織である太海エビ網組合は現在 18 名の漁業者で構成されており、イセエビ刺網漁業の資源管理や安全操業のためのルール決め、刺網資材の共同購入、操業可否の判断などを行っている。当組合の代表である江澤誠氏は、家業である旅館業に従事する傍ら平成 28 年から本格的に漁業に参入している。

・受賞者の特色

＜イセエビの資源管理＞

- ① 太海エビ網組合では公平な漁場利用と小型船による操業の安全を確保するため、操業ルールなどを決める際に徹底的に話し合い、6 グループ編成のローテーションでの漁場利用や、操業状況・流通実態を踏まえて綿糸網の反数を決めるなど組合員全員が資源管理の取組内容や効果をしっかりと理解している。
- ② 入手が難しく維持管理に手間はかかるが、伸縮しづらく切れやすい性質によりイセエビの掛かりが悪く獲りすぎを防ぐ効果や、自然分解されやすい特性からゴーストフィッシングを防ぐ効果などがある綿糸網を利用している。

・普及性と今後の発展方向

太海エビ網組合による合意形成の仕組みや、水産資源や海洋環境にも良好に働く綿糸網の使用により、経年の変化や年間の変化を見ても安定した漁獲が行われ漁家経営にもプラスに作用している。他の地域への普及という点では難しいものの、漁村の自主的な資源管理の成功事例として高く評価することができる。